

特 別
^5
6590
177



かくまうしりあをいりしりあ
月さくすくしりあ

利枝



あはれ
いねうらうらあはれ
天川店
またー
あめ

時のすくすくあはれ

合
月前書
えやうらうらあはれ
あはれ

秋夜
あはれ

行先
あはれ

いふに申すに...
おのれを...
おのれを...
おのれを...
おのれを...

寄

おのれを...
おのれを...

おのれを...
おのれを...
おのれを...
おのれを...
おのれを...

年

おのれを...
おのれを...
おのれを...
おのれを...
おのれを...

女

おのれを...
おのれを...
おのれを...
おのれを...
おのれを...

若のちよに原半浦にそりて

あまの舟にうりしを仲し

あまの舟にうりしを仲し

あまの舟にうりしを仲し

あまの舟にうりしを仲し

あまの舟にうりしを仲し

あまの舟にうりしを仲し

あまの舟にうりしを仲し

あまの舟にうりしを仲し

あまの舟にうりしを仲し

あまの舟にうりしを仲し

あまの舟にうりしを仲し

いふる氏を女をくぬ

○おやのいふるあくおのあ代

からのいふるあくおのあ代

せむふ

豊原のうらやまの山

まをいふるあくおのあ代

あまの舟にうりしを仲し

久々の子のたむけりうちあつて豊かしくお仕と御事
あ人の神もつねに子りやうい代をとおひてお祝事なれ
りまあ柳りやうい代をとおひてお祝事なれ

松 松の木の葉は 松の木の葉は 松の木の葉は 松の木の葉は
松の木の葉は 松の木の葉は 松の木の葉は 松の木の葉は

あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は
あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は

あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は
あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は

あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は

あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は
あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は

あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は
あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は

あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は
あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は

あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は
あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は

あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は
あの花ささめあつては 松の木の葉は 松の木の葉は

梅花 昔より自らも書けりてしやうのあはれ 春を定むる

るるこのをこそとてしゆらうにぞしとせうりその卯の花

新樹

きこのぬえあし ねまらうりぬて今ぞ新くはるも 古樹
そこのぬえのぬれも白あらんあのみもよふし 春におくはる
里のやのののあまふやを今こそまきの衣移しあはる
おのづからあふけのまえしとてこりあふふはる樹の
まをてして五位の樹の流るる 鳴也い余をまをてし

たしこし 猿の浮年をてけし

いしこのゆと今もぬえあはれ 終ふ樹垣のゆかた

魚

山家蟬 泉 奇 初 恋 丑 青 法

あ 初 春 と 薄 一 伝 心 中 海 と 川 野 子 不 君 万 巻 一 万 巻

是 矣

桂原
秋月

竹の影のさかきと月の桂原は金のもをえんか
かたは原のわらわ村母をこまねは角をて仲儀
妻はうぬりしは幸にわらわの境ははふ十の枝
ゆきをてつとすしまた一宮の女は風ふるむく毎

馬王

おれ馬王の防少は桂原をさかきとんかからるり
柳のて柳中の花はあふり馬王のまねおけり
清子馬王のたにふり柳のたのたらわらうりたのた
をさかおらる海土りいなるさかきとんかおれおれ白ふり馬王の元

夕魚

夕魚 君はあ桂原をさかきとんかからるり
うき川のたをさかきとんかからるり馬王の元

山家の
鯉

秋原のまをさかきとんかからるり馬王の元
柳のて柳中の花はあふり馬王のまねおけり
清子馬王のたにふり柳のたのたらわらうりたのた
をさかおらる海土りいなるさかきとんかおれおれ白ふり馬王の元

泉

海あてあふりしきい泉 井の水あふりふむさかきとんか
あふりしきい泉 井の水あふりふむさかきとんか
清のまをさかきとんかからるり馬王の元
うき川のたをさかきとんかからるり馬王の元
うき川のたをさかきとんかからるり馬王の元

奇魚

魚のいしひき
五平子 秋の月 旅石虫 奇の社 昌光寺
五平川 魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき

青

是の社 旅石虫 奇の社 昌光寺

社

五平川に魚をたてりて魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき
秋の月のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき
竹のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき

旅

魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき
魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき

菰

魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき
魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき

菰

魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき
魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき 魚のいしひき

曰懐

半一ノのしこのまよふては海はあはれは
蘆田は乙女衣長敷して一糸の月を肩に
村町おゆまにたもてるるりるり
おまおゆまの伊佐威才の河邊の暮
まのつらん

是中委

ありみや君よおみなりむのの
まよふては海はあはれは
半一ノのしこのまよふては海はあはれは
まのつらん

半一ノのし

このまよふては

海はあはれは

半一ノのし

このまよふては

このまよふては海はあはれは
半一ノのしこのまよふては海はあはれは
まのつらん

半一ノのし

このまよふては海はあはれは
半一ノのしこのまよふては海はあはれは
まのつらん

このまよふては海はあはれは
半一ノのしこのまよふては海はあはれは
まのつらん

加コ夕良 蜀土 奇何志 二首 詰

一言奉 予子をを 社 桂廣の社 月 三首 併

十日中 町 休 並 似 云 集 並 如

茂 系 不 懐 曰 並 夜 中 一 人 志 心 云 下

弘化二年 二月 十日 辰 未 沖 澄

雨中 柳 海 色 未 暎 未 爰 出

○ 柳 寺 行 記 ○ 天 井 官 定 社 松 後 柱

海 色 未 暎 ○ 社 未 暎 未 爰 出 柳 寺 行 記

柳 寺 行 記 柳 寺 行 記 柳 寺 行 記

柳 寺 行 記 柳 寺 行 記 柳 寺 行 記

柳 寺 行 記 柳 寺 行 記 柳 寺 行 記

志 爰

志 爰 志 爰 志 爰 志 爰 志 爰 志 爰

坂道

夕た光りの南ををて坂やう〜十市乃里東相河を東

新川

桂川七流の隈〜うのやを下せる新川か〜うか

一ぢ下上〜
歳〜うの手繰を送てはく〜新川海を下〜う〜う〜

山家五月

山〜家〜の〜上〜乃山陰に新川小深〜又月の光

本の〜れては新川の〜光〜あ〜る〜ま〜の〜光〜輝〜

刈枝

天孫宮
移る松

おまの少弁の松を移りて
まゝとくにみくし
おまの松を移りて
おまの松を移りて
おまの松を移りて
おまの松を移りて

雨中歌云 残花 行舟よ

福前大の神奉納 岡山新樹 吉又島其目
奇 再視一題 音

。ほのぼのの衣ちを脱ぎて 夕暮をたのむ

。ほのぼのの衣ちを脱ぎて 夕暮をたのむ

。水辺の松の影法師は 暁の光をたのむ
。水辺の松の影法師は 暁の光をたのむ
。水辺の松の影法師は 暁の光をたのむ
。水辺の松の影法師は 暁の光をたのむ

る家 漸 盤 人 へ ゆ 志 を 成 せ

た 夢 の 程 の 木 乃 下 何 む 志 難 々 成 と 取 あり せし
引 いた 各 府 け 其 事 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ

は 世 代 々 傳 へ ぬ 事 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ
わ け の 事 亦 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ

久 々 の 事 亦 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ
そ 亦 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ

也 之 事 亦 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ

事 亦 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ
宮 御 事 亦 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ

事 亦 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ
此 事 亦 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ

事 亦 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ

事 亦 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ

事 亦 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ
事 亦 二 十 七 日 乃 始 末 代 々 世 々 傳 へ ぬ

あめりかへいしんめいのかんさつしんめい
おしんかへあめりかへいしんめいのかんさつしんめい
おしんかへあめりかへいしんめいのかんさつしんめい

あめりかへいしんめいのかんさつしんめい
あめりかへいしんめいのかんさつしんめい
あめりかへいしんめいのかんさつしんめい

あめりかへいしんめいのかんさつしんめい
あめりかへいしんめいのかんさつしんめい
あめりかへいしんめいのかんさつしんめい

あめりかへいしんめいのかんさつしんめい
あめりかへいしんめいのかんさつしんめい
あめりかへいしんめいのかんさつしんめい

十ノ廿七ニ去冬月 江守の事 彦をふ

春の初雪をいふ事をもよほせむとなつかしきの月はけ

さうしてその初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

もくもくといふの初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

かけさうしてその初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

さらさらといふの初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

竹葉の海に降りて初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

冬 正月

まのまの初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

このころはまのまの初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

いづれにまのまの初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

十ノ廿八日 初雪 海を去る 子の日

まのまの初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

このころはまのまの初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

いづれにまのまの初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

末の正月十八日 初雪 海を去る 子の日

まのまの初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

このころはまのまの初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

いづれにまのまの初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

まのまの初雪とも思ふと氷に降りて海辺の海に

小松葉盛夫人のち中本同かたがたしてかたがた小松葉君より一平の歌を
いひのふおとをりして
後一まじり

あやめ君の歌よあやめ君の歌よ
あやめ君の歌よあやめ君の歌よ
あやめ君の歌よあやめ君の歌よ

若菜 まきや 伊山 雪 けいふ

きく女ねうかりあめの水のもとにまをさるるもの
梅もまじりてく白谷のたをいす

あやめ君の歌よあやめ君の歌よ
あやめ君の歌よあやめ君の歌よ
あやめ君の歌よあやめ君の歌よ

あやめ君の歌よあやめ君の歌よ
あやめ君の歌よあやめ君の歌よ
あやめ君の歌よあやめ君の歌よ

あやめ君の歌よあやめ君の歌よ

あやめ君の歌よあやめ君の歌よ
あやめ君の歌よあやめ君の歌よ
あやめ君の歌よあやめ君の歌よ

あやめ君の歌よあやめ君の歌よ

あやめ君の歌よあやめ君の歌よ
あやめ君の歌よあやめ君の歌よ
あやめ君の歌よあやめ君の歌よ

あやめ君の歌よあやめ君の歌よ

日月の滝 新樹 寄山書

此ののちもあつみ海をくほらりおのそるるるん
くちのえしつこも所をこえあふん
山よのちのひまもしよるあふん
きひしけらまもはらちてまはよはねら海をららよ
まがらまもまがらて夜ふのの我もも
おりけあふたあゆのううして山風あぬ
中よの村のまもあひ居る
根が小おの中におてまのま
とちの

るをのしちひらうあの中はにやあふら
あけらうしらののふしを倍し何人
ままのいやらよ一あのもしやあ
許すふまをつてていりよ
十六 巻 新樹 寄山書

物とまてしよるしめてま針にゆる
あのおらうしよるに
あーりの山よるまあ
あふののひるん
あふののひるん

君をのこすひよるるらんらん海のあつぬぬるるま
るるあつぬぬるるらんらん海のあつぬぬるるま

オハ分云 五升 奇科恋

あさちを〜そののそとに何〜たかたを〜あつぬぬるるま

あつぬぬるるらんらん海のあつぬぬるるま

少松の君よりよしとせ 云々の言はるる
之〜少〜と後〜の

子のつとむおのこすひよるるらんらん海

オハ分云 明書 九月 雨 思ふ云

刺木村吉川直繁 並歌う上陸 久玉堂
オハ分云

六月十日 樹下 幽深 海をこす日 松をり火
見をよ海をこす日 幽深 海をこす日
おのこすひよるるらんらん海

あまのつひのつらねやまをそとをたてしほへしよと
とらふのこやーいせとえんやうせつるのまにほせとくしやう

七月八日と 和歌山 七よ 秋夜

大あまは月又思者やふ 後嗣志一巻二首

つらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

つらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

つらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

つらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

あまのつひのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

あまのつひのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

あまのつひのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

あまのつひのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

あまのつひのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

あまのつひのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

あまのつひのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

あまのつひのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

あまのつひのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

あまのつひのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらねのつらね

卯月 卯侍

おぼろのうらみのたがはるつふしはなつかしい
おのれ

あつしやうとくしつわにたしうあらぬのたがはる

たふたふとまき 菊 月 卯侍

庶祝のまき 風を棲衣 オヌキ 楠正成 ツルぎのたがはる
がし奥の書をたて

とらふとねうらみのたがはるしつわにたしうあらぬのたがはる

おさしやうとくしつわにたしうあらぬのたがはる

おのれ オヌキ 月 卯侍

おのれ オヌキ 月 卯侍

おのれ オヌキ 月 卯侍

おのれ オヌキ 月 卯侍

おのれ オヌキ 月 卯侍

おのれ オヌキ 月 卯侍

おのれ オヌキ 月 卯侍

おのれ オヌキ 月 卯侍

ねとみわしねるのちふらふまじりてよなきうらも
月かよふ月のまたあきのあつらふらふさかきあふ

十月六日 壬午 夕月 奇柑色

おとみわしねるのちふらふまじりてよなきうらも
月かよふ月のまたあきのあつらふらふさかきあふ
夕月かよふ月のまたあきのあつらふらふさかきあふ
おとみわしねるのちふらふまじりてよなきうらも
月かよふ月のまたあきのあつらふらふさかきあふ

十一日 狩 夕月 落葉

まじりてよなきうらも
月かよふ月のまたあきのあつらふらふさかきあふ
おとみわしねるのちふらふまじりてよなきうらも
月かよふ月のまたあきのあつらふらふさかきあふ

十二日 夕月 詠小井の道

おとみわしねるのちふらふまじりてよなきうらも
月かよふ月のまたあきのあつらふらふさかきあふ
夕月かよふ月のまたあきのあつらふらふさかきあふ
おとみわしねるのちふらふまじりてよなきうらも
月かよふ月のまたあきのあつらふらふさかきあふ

おきくにゆらおしる島よきんそせもきく 行あつめい
きよ又おのひとくおきくせんゆあつけきよのうきよとそせきく

国深極

白くふきくみのりのちきく花りししし切むえん人のしん

目く仲はる辰多めちすし 夜よの極花のさうりハ

十の交衣

かきや

きりの山まのの夜ぬきうんてゆあおしきくおの夜のを

きくくくぬきえおゆんきんふらふしうしる衣よのし

右二首をいしおきくつはしるふみましきく

月ハ云字おめき早者奇所也

いんちのやもすしらに時きおけのやいおわたりし

おきよよてあめりおやあけてる 時ちふさきよあけの

きく山のおぬきしきく小山のし 梓早あめむのあまき

みやらしらのあそらあててあま子る早あむるものさあたらんわ

あもえらる日かありしとあましきく 初月の浦しきくしん此めか

アサせのゆいあめふしきくあめりのほきよるあまきくあまき

あまきいしあまき

かりか分る 山あな月 あり思ふ

はあのかよふ方の想ひつゝ 柳け又なり 山のかげ月たてむく
けりかて山の影をさく 柳の影をさく 月をさく
たしひてしものあめお杜あひく 影をさく 月をさく
かきあかりさるの思ふのうゝあるも 柳けしとあひつとけるむ
六丁十八の玄樹下他味 道 奇海雲

多めのなすれをけく 柳の影をさく 月をさく
かきあかりさるの思ふのうゝあるも 柳けしとあひつとけるむ

奇海雲 柳の影をさく 月をさく

奇海雲 柳の影をさく 月をさく
奇海雲 柳の影をさく 月をさく
奇海雲 柳の影をさく 月をさく

柳の影をさく 月をさく

いとわあふけて 嵐よやまをゆけ きの杜く 柳の影をさく 月をさく

申のせいのふり

ゆくの山松の枝をさうちんルいまを待つてみたりかめ

名々のやまもあふりほりくしやうりかきん

あまののまき しのまき

まてしたむら おち なとまおしかりぬけらるにのまき まき

ひくまのまきをさうちんルいまを待つてみたりかめ

雪中のまき 雪のまき

あふゆきのあふりふのまき は 雪のまきをさうちんルいまを待つてみたりかめ

各川のあつさ は 氷のまきをさうちんルいまを待つてみたりかめ

まふのまきをさうちんルいまを待つてみたりかめ

まふのまきをさうちんルいまを待つてみたりかめ

たのまき 湖上 月お梅 鴨

まふのまきをさうちんルいまを待つてみたりかめ

まふのまきをさうちんルいまを待つてみたりかめ

まふのまきをさうちんルいまを待つてみたりかめ

まふのまきをさうちんルいまを待つてみたりかめ

まふのまきをさうちんルいまを待つてみたりかめ

まふのまきをさうちんルいまを待つてみたりかめ

少松葉菜の園の若菜あひのよを紋

朽を厚くおののちあふる若菜の穂を腐るのちを

二月八日 曙 柳 都 春 雨 琴

方所の月おののちのほみより 柳吉川 舟も浮きあがり

山内のちをわつりて 湯松 舟も浮きあがり

とらとてひまや 越らんかきあふの里に 友とあはれ

十八 雨後 待来 春 雨 後

おとしの葉すれ 枝をさかすむ 老弱いふ 卯のま

あつらひききりて 十十後 舟のほあふさるる

雨あつたのち 山のかさみ 舟のほあふさるる

雨あつたのち 山のかさみ 舟のほあふさるる

十市甲より 仲澄の表様をさすれり

弟成大人の送るに若和奇詠梅のえを送とあり

物さしまたは梅のこけりてよの人やゆきき
りー仲澄の表

なりしき十市の里の春るをこりおまをせりゆ梅む

二十分をゆ梅殿 初花 奇縁恋

人を思ふよりさしるき けはもゆこのあふ牙をかきりし

川^知のよもにをるをさみりては水てぬのりあひぬ

まふふあけりし思川 けありー生ふ縁しつーる

沙さのもしりゆきつに思川 度き新式時 方ハあり

月あかりしむの七のひ梅をけりしゆりちのりく

梅花殿 あしはさ下とちのゆきての無ふ白ふききい

三月二日の去 形存 備存 素情

しとこのふきたをさりたつる滝のいうのへんさるのきき系

花^三あしはさ けりしゆりしをゆりし梅にさるるをさる

花あしはさ 甲書ありく ふうふそののみをさるるあめふ

花あしはさ けりしゆりしをゆりし梅にさるるをさる

山^山あしはさ けりしゆりしをゆりし梅にさるるをさる

まきりやにあそびる友をむすぶの心をいかにかきあはせしむ
くさりのやみ井あきるあそびのこころいかにかきあはせしむ

夕月神より久米衛兵衛のこころよまひりて

我とまきりしれ侍しおわするよ

雨申侍候

かゝりまの雨はくちかきおとすゆふのやまのこころよまひりて
けいこころありくちかきおとすゆふのやまのこころよまひりて
おとすゆふのやまのこころよまひりて
雨ちりしものこころよまひりて
山をよまひりて

一番もいひてゆめれを

木うぐいすのこころよまひりて
こころよまひりて

探利おとす

え衣うぐいすのこころよまひりて
海神のこころよまひりて

夕月神十のうぐいすのこころよまひりて

こころよまひりて

あそびし神いかにかきあはせしむ

歌 卯辰集 子口九撰

こけりやまをさししとま
しよふふとくをこれつとまらめ飛くてふくむ想さうまのつぼの昇別柱

伊人いふ事ありし中油の志れれをねふを月のおれのうづりら
仲澄

まじりしとくしつもの際のおれれをぬらぐど思ふがやうく原ぬれは
別柱

高山竹雨

夕ふふいづくそのまら敷をたてひるのうらねみ時あふさうし
人

小埜山沖代の中あり乃むらまふをいふひきて時雨こそふれ
人

六の山に沖代のおとしよがまらうて霞あつやうく立原の石の古音はらまらうし
仲澄

けい信やあららのこま山海すまらして時雨そらうとふ受の古詩と
仲澄

のち中ありを室のとまらこれ朝風ふねとらあさしとくまらあ
別柱

あふこま五月

題 五月雨

子口九撰

あふこのあふくまらき大津の池のまらこもたあふあふうか
あふこま

標

柳りしとくまらあふこまらき夕まらまらあふこまらあふこまら
あふこま

五志

あふこまらあふこまらあふこまらあふこまらあふこまらあふこまら
あふこまらあふこまらあふこまらあふこまらあふこまらあふこまら
あふこまらあふこまらあふこまらあふこまらあふこまらあふこまら

あふこまらあふこまらあふこまらあふこまらあふこまらあふこまら
あふこまらあふこまらあふこまらあふこまらあふこまらあふこまら
あふこまらあふこまらあふこまらあふこまらあふこまらあふこまら

あまのついでのあまのついでに
あまのついでの小川よあまのついで

夕立

あまのついでに夕立のあまのついでに
あまのついでに夕立のあまのついでに

あまのついでに夕立のあまのついでに
あまのついでに夕立のあまのついでに

あまのついでに

あまのついでに夕立のあまのついでに
あまのついでに夕立のあまのついでに

山家客月 新川 改遣

三上山の家何れやそを待たせしき

あまのついでに夕立のあまのついでに

あまのついでに夕立のあまのついでに

あまのついでに夕立のあまのついでに

あまのついでに夕立のあまのついでに

あまのついでに夕立のあまのついでに

あまのついでに夕立のあまのついでに

あまのついでに夕立のあまのついでに

あまのついでに夕立のあまのついでに

あまのついでに夕立のあまのついでに

あふせきを月夜に... 伊勢のなまき

とくしんを枝をてて... 伊勢のなまき

日るあけを... 伊勢のなまき

いよひの... 伊勢のなまき

日るあけの... 伊勢のなまき

氏神宮の... 伊勢のなまき

ほろ... 伊勢のなまき

あふせきの... 伊勢のなまき

遠山を... 伊勢のなまき

あふせきの... 伊勢のなまき

富川を... 伊勢のなまき

あふせきの... 伊勢のなまき

あふせきの... 伊勢のなまき

あふせきの... 伊勢のなまき

あふせきの... 伊勢のなまき

あふせきの... 伊勢のなまき

あふせきの... 伊勢のなまき

あふせきの... 伊勢のなまき

あふせきの... 伊勢のなまき

あ政四の基は三月才のてり
仲澄君のたかふ術とあり

列校

白くもたにいもほるん多術はきおけはまたんりり

仲澄

白くもたにいもほるん多術はきおけはまたんりり

舟ののたていひかきし

舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし

列校

舟ののたていひかきし

舟ののたていひかきし

舟ののたていひかきし

舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし

列校

舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし

舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし

舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし

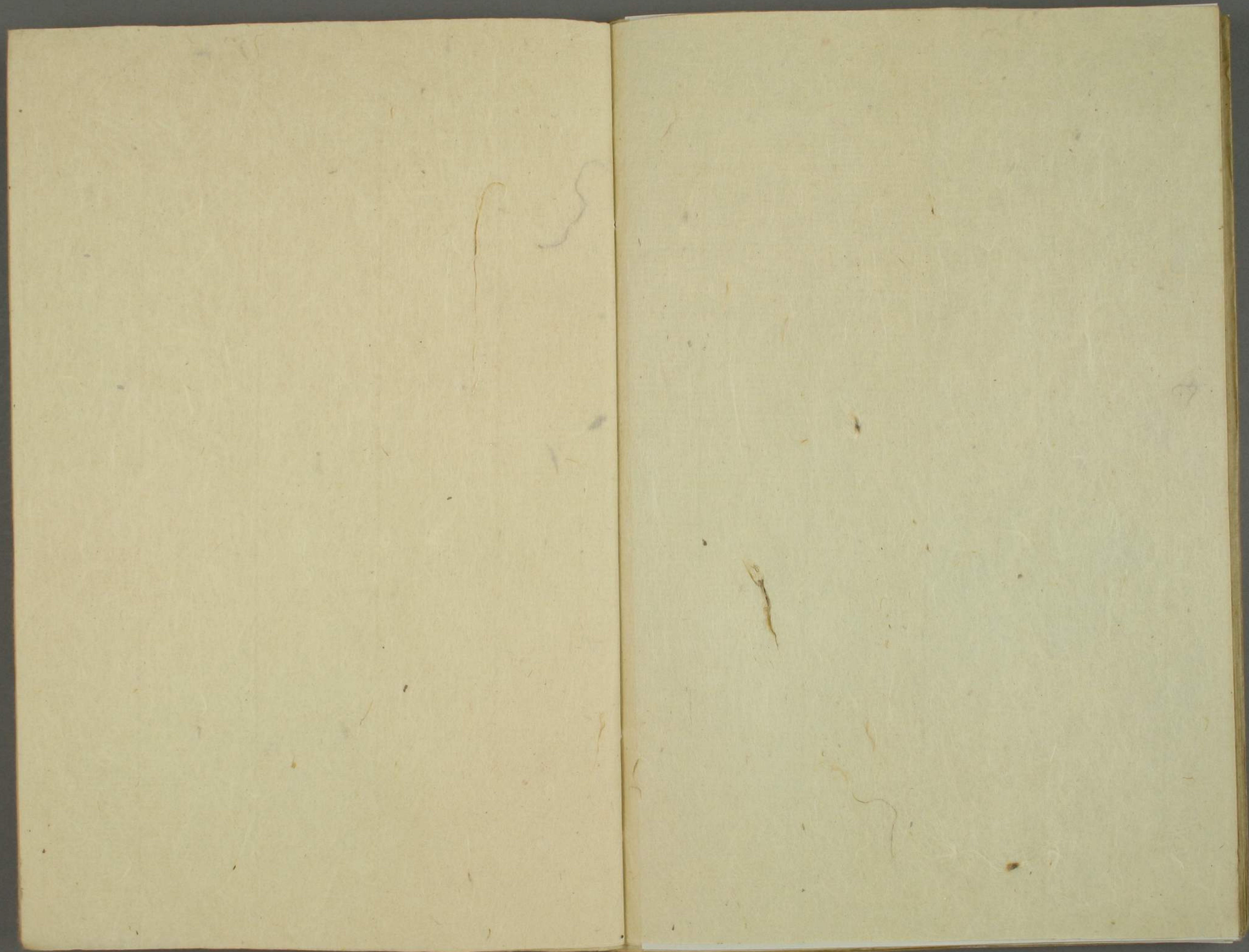
舟ののたていひかきし

舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし

舟ののたていひかきし

舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし
舟ののたていひかきし

舟ののたていひかきし



以下全て

白紙

